百年続く葛巻型酪農を構想策定チームを設置

第１回新葛巻型酪農構想プロジェクトリーダー会議であいさつする鈴木町長

第１回新葛巻型酪農構想プロジェクトリーダー会議は７月22日、くずまき交流館プラトーで行われました。

プロジェクトチームは町、県、ＪＡ新いわて、農業公社の職員で構成され、この日の会議には11人が出席。多頭経営体の育成やコントラクター組織の育成など、100年続く葛巻型酪農の方向性を探り、平成26年度内の構想策定を目指します。今年度は酪農家の意向調査や先進地視察を行い、問題の整理と課題の洗い出しを行います。

鈴木町長は「モデルケースとして世界からも注目されるような総合的な一次産業を築きたい」と構想策定に意欲を見せました。

耕作放棄地解消に一役 委員総出でナタネ収穫

町農業委員会（鈴木努会長・委員13人）は７月23日、大石地区の耕作放棄地に作付けしたナタネの収穫作業を行いました。

この日は農業委員全員が参加。150cmほどの背丈に成長したナタネを草刈り鎌を使って手際よく刈り取り、トラックに積み込んだ後、旧小田小学校体育館に搬入。今後、脱穀や選別作業を行い、油の抽出を行います。

収穫作業に参加した橘秀子さん（江刈馬渕）は「今後もこのような活動を続け、耕作放棄地ゼロになるよう委員全員で頑張っていきたい」と意気込みを語りました。

35アールほどの農地に作付けしたナタネを手作業で刈り取る農業委員

県の防災ヘリ連携訓練 少年消防クラブが搭乗

県防災ヘリコプター「ひめかみ」に搭乗した小屋瀬と小田の少年消防クラブ員

県防災ヘリコプター連携訓練は７月14日、総合運動公園駐車場で行われ、消防団や少年消防クラブなど55人が参加しました。

この日は、野焼き作業中に炎が山林へ延焼拡大したとの想定により県防災航空隊との連携訓練を実施。参加者は、上空からの偵察訓練や空中消火用水のう補水訓練を行い、防災意識を高めました。

ヘリコプターに搭乗した小屋瀬少年消防クラブの佐藤拓土さん（小屋瀬中１年）は「初めての体験で緊張しました。山がたくさん見え、上外川の風力発電所や小屋瀬中学校などが模型のように見えました」と感動した様子でした。

６次産業に挑戦し15年 斗南丘牧場が記念講演

「ボン・サーブ」とはラテン語で「美味しい」という意味ですと笑顔で語る原さん

町農業委員会の農林水産大臣賞（第５回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業）受賞祝賀会は７月２日、グリーンテージで開催され、町内外の農業関係者など104人が参加し受賞を祝いました。

祝賀会に先立ち有限会社斗南丘牧場（青森県むつ市）代表の原英輔さんが講演。原さんは、平成10年に地元の酪農家と一緒に立ち上げたミルク工房「ボン・サーブ」の取組みを紹介。ソフトクリームやジェラート、ヨーグルトなど、手作りの美味しさが口コミで広がり遠方からのファンも増えています。「商売には他業種との人々とのつながりが大切です」と苦労話を交えながら熱心に語りました。

笑顔で広がる交流の輪 町の長寿スポーツ大会

第28回町長寿スポーツ大会は７月11日、町社会体育館で行われ、町内の高齢者など243人が参加しました。

開会式で町老人クラブ連合会の土谷育造会長は「こういう行事に参加することが長寿につながる。交流の輪が広がる楽しい大会にしてほしい」とあいさつしました。

地区ごとに５つのチームに分かれ、ゲートボールリレーや缶積みリレーなど、ユニークな団体競技８種目に取り組みました。苦戦しながらゴールする選手に応援席から温かい声援が送られました。

結果は江刈地区が優勝。川下孝一さん（五日市）は「チームワークも良く、練習の成果を十分に発揮できた」と笑顔で喜びました。

二人でボールを挟んでリレーする競技「一心同体」

育てよう思いやりの心 小屋瀬小児童が花植え

花植えに参加した小屋瀬小児童と人権擁護委員の下屋敷利美さん（左）と長岡功さん

町の人権擁護委員は７月２日、小屋瀬小学校（菊池育子校長・児童27人）の児童とともに花の苗を植えました。

この活動は、子どもたちが花を育てることを通して命の大切さを身につけ、やさしい思いやりの心を育んでいくことを目的として、町内の小学校で順番に実施しています。

この日は、同校の全児童27人と人権擁護委員２人が、ペチュニアやベゴニアなど５種類200本の花の苗を丁寧に植えました。

人権擁護委員の長岡功さん（田子）は、「毎日花に水やりをしながら思いやりの心を育ててください」と笑顔で呼びかけました。